

【テーマ】コロナ禍で自分にとって良かったこと、コロナ禍で変わったこと

参加者が3つのグループに分かれそれぞれでディスカッションを進めていく。

グループ討議50分後、全体討議30分を行った。

コロナ禍で対面授業が続ぎ、臨床実習が進まない状態であったこと。オンライン授業も決して悪いものではなく、慣れるとどこからでも参加しやすく、リラックスして聴けるメリットもあると感じたこと。オンライントレーニングをしたクラブもあった。クラブやサークルに属していることで少人数の集まりがあり、いろいろ先輩や同期生と意見交換ができたことはかけがえのない宝物と感じたことなど。研修医からは、学生さんからの勉強の仕方、又医師の現場の実際や医師になつての考え方などの質問にも快く答えてくださった。女性医師のこれから迎える様々なライフイベントに不安を持っておられる方もいたが、自分の意見を率直に言えるし、

方ばかりであった。我々もこのような対話をすることで、若い先生、学生さん方の気持ちに寄り添い、支えとなることとの大切さを認識した。



文責 岡田博子

令和3年度 女性医師支援・ドクターバンク連携

中国・四国ブロック会議

令和3年11月14日（日）10時00分
徳島県医師会館
オンライン開催 担当 愛媛県医師会

出席者（役員・委員）

森副会長、今井副会長、岡田委員長、斎藤誠一郎副委員長

1. 開会

愛媛県医師会会長 村上博先生

2. 挨拶

男女平等、男女共同参画社会と言われて久しいが、未だに実現しないまま少し古めかしい表現となつてしまっている。愛媛大学医学部医学科の入学生も半数が女性となっていることより今後、半数は女性医

師によって支えらえることになるなど、概念を根底から変えなければいけない時期になってきている。女性医師のキャリア形成が子育て等によって中断しないように、女性医師の活躍が診療科の偏在、医師不足や働き方改革の問題の解決につながるよう、取り組んでいきたい。

日本医師会副会長 今村 聡先生

各ブロックにおける情報交換の場として、平成21年度より「女性医師支援センター事業ブロック別会議」として開催してきたが、令和3年度よりドクターバンク事業における各都道府県医師会とのさらなる連携強化を目的とした「女性医師支援・ドクターバンク連携ブロック別会議」として一新することになった。日本医師会が運営している女性医師バンク事業では、新型コロナウイルスワクチン接種人材確保相談窓口を通じて、ワクチン接種・保健所業務などのコロナ関連業務に多くの医師を派遣し、活躍していただいている。各県医師会と女性医師バンクとの連携を進めていくことは、医師確保の上で大変重要である為、活発な議論をいただきたい。また、これまで以上に女性医師のキャリア支援も重要な課題である。各県との情報共有をしつつかりさせていただいて、これらの女性医師支援センター事業に活かしていきたい。

3. 議題

1 日本医師会女性医師バンクからの報告事項について

日本医師会常任理事 神村 裕子先生
日本医師会女性医師バンクは、厚生労働省の指定を受け、今後急増していくと予想される女性医師のライフステージに応じた就労を支援し、医師の確保を図ることを目的として、平成19年度より日本医師会が実施している事業である。求職者も求人も、登録から紹介に係る手数料は全て無料である。令和3年10月1日時点での登録状況は、医師登録者数2751件、施設登録数 5948件、求人登録件数 常勤・非常勤 1938件、スポット93件、就業成立件数 2084件（累計）である。

2 各県医師会報告事項について

- ① 各県医師会ドクターバンクの状況報告
- ② 各県医師会における復職・再研修支援体制について
- ③ 女性医師のキャリアアップ支援体制について

徳島県医師会副会長 森 俊明

徳島県医師会ドクターバンクは、厚生労働省の認可を受け、徳島県からの委託事業として「徳島県医師会 医師・歯科医師無料職業紹介所」を平成6年12月1日に徳島県医師会内に設置し医師と歯科医師の紹介事業行っている。

事業内容は、地域医療・へき地医療機関に勤務を希

望する医師、歯科医師の就職先の斡旋、就業に関する相談や支援、雇用に関する情報提供、女性医師の復職の為の研修と復職支援等の相談やＵターン・Ｉターン・定年後の紹介等がある。

求人募集に比べて求職希望者が少なく、求人側への紹介に至らない現状もあるが、過去3年間の成立件数は、平成30年度は61件、令和元年度は37件、令和2年度は32件となっている。例年行われているマラソン大会などのスポーツ大会が開催されていなかったこともあり、過去2年の成立件数は少なくなっている。

課題としては、個人情報・守秘義務・ＩＴ活用等が挙げられ、個人情報を守りながら、紹介することや人物の詳細までを把握することは難しく、求人・求職側の双方にトライアル期間を設けることを進めている。

求職希望時に、育児中のため時短で働ける医療機関を希望したいという要望についても医療機関と交渉を行っている。また「育児中等での短時間雇用希望の方相談に応じます（詳細は面接時）」のような条件提示を示す医療機関もある。

復職・再研修支援体制については、女性に限らず復職を希望されている医師に対して、希望に沿った医療機関とのマッチングを行っている。過去の相談事例には育児中の女性医師や、パートナー医師の県内転入に伴う徳島での再就職相談があった。このように、個別の事情に対応し勤務形態や時間短縮等により良い勤務環境で働けるよう求職者に合った支援を行っている。また、シニア世代の医師からの相談を受けて、退職後の勤務先、閉院後の勤務先なども紹介している。

女性医師のキャリアアップ体制は、復職を希望される女性医師について関係機関と連携を行いながら公的病院での研修が行えるよう支援している。また民間病院でも指導を受けながら勤務できる環境を整備して頂くため、医療機関に対して働きかけを行っている。

また、広報を通して本職業紹介事業を広くPRするとともに、徳島大学とも連携を取り、医学部4年生に対し、年に1回、徳島県医師会男女共同参画委員会からワークライフバランス、働き方改革、医師の意識改革等のテーマで、将来医師として男女ともお互いに尊敬しあえるよう、立場が違っても同じ目標に向かっていくことを忘れないでほしいとの願いを込めた講義も行っている。



徳島県医師会ドクターバンクの近況報告

【資料1】

設立年月日	平成6年12月1日	
開設目的	①地域医療・へき地医療機関に勤務を希望する医師、歯科医師の就職先の紹介、あっせん ②就職に関する相談、支援 ③雇用に関する情報提供 ④女性医師の復職のための研修と復職支援などの相談	
過去3年間の求人数	平成30年度	74 件
	令和元年度	77 件
	令和2年度	82 件
過去3年間の求人人数	平成30年度	128 人
	令和元年度	111 人
	令和2年度	111 人
過去3年間の求職件数	平成30年度	15 件
	令和元年度	19 件
	令和2年度	15 件
過去3年間の求職人数	平成30年度	65 人
	令和元年度	44 人
	令和2年度	34 人
過去3年間の紹介件数	平成30年度	75 件
	令和元年度	51 件
	令和2年度	41 件
過去3年間の成立件数	平成30年度	61 件
	令和元年度	37 件
	令和2年度	32 件
広報手段	徳島県医師会報、ホームページ	
紹介（面会）時の方法（持参物等）	求人医療機関にて施設見学を含めての面会紹介状、履歴書、医師免許（コピー）を持参	
求職の医師（常勤）の情報収集方法	入退会などでの手続きの際、ドクターバンクへの登録を紹介	
女性医師の求職希望、復職希望等の情報収集方法	入退会などでの手続きの際、ドクターバンクへの登録を紹介	
運営上の問題点等	個人情報保護、守秘義務についてIT活用について	

女性医師のキャリアアップ体制について

復職を希望される女性医師については、関係機関と連携を行いながら、公的病院での研修が行える体制となっています。
また、民間病院でも指導を受けながら勤務できる環境を構築して頂くため医療機関に対して、働きかけを行っています。
職業紹介事業を広くPRするとともに、徳島大学とも連携をとりながら進めております。

女性医師・復職支援 相談窓口



ドクターバンクの状況報告

徳島県医師会ドクターバンクは 徳島県からの委託により へき地の医師確保を目的に 平成6年12月1日より厚生労働省の認可を受け 徳島県医師会館内に 一般社団法人「徳島県医師・歯科医師無料職業紹介所」を開設しています。

現在は、へき地のみならず、県内における長期・短期の就業支援も行っています。

最近のトピックスとしては、コロナ感染拡大に伴う、PCR検査センター・大規模ワクチン接種・ホテル療養などの業務に ドクターバンク登録医師とマッチングを行い出務いただいています。

無料職業紹介事業許可証

応援診療にて



復職・再研修支援体制について

女性に限らず、復職を希望される医師に対して希望に沿った医療機関とのマッチングを行っています。

今までの相談のなかには、育児中の女性医師やパートナーの県外からの転入に伴い徳島での再就職等がありました。個別の事情に対応し、勤務形態や時間短縮等より良い勤務環境で働けるよう求職者にあった支援を行っています。

また、シニア世代の医師からの相談を受けて、退職後の勤務先・閉院後の勤務先等のマッチングも行っています。

